

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	特別格加算の取組の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力)	完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				計画時(平成19年)	1年後(平成20年)	2年後(平成21年)	3年後(平成22年)	目標値(平成22年)	達成率				計画時(平成△年)	1年後(平成□年)	2年後(平成◇年)	3年後(平成○年)	目標値(平成○年)	達成率							
関市	小野地区耕作放棄地対策協議会	飼料作物(肉用牛)	【飼料増産】(飼料増産)飼料収集・収穫面積を0.5ha以上増加	0ha	0ha	1.13ha	1.13ha	1.13ha	100%	放牧面積が0haから1.13haに増加した。	飼料作物(肉用牛)	【飼料増産】(飼料増産)労働時間を2%以上削減	158.71時間/頭	158.71時間/頭	116.23時間/頭	112.62時間/頭	116.23時間/頭	108%	繁殖雌牛1頭当たりの労働時間を127時間削減した。	放牧条件整備(内訳)障害物整備785mスタンション1個水飲施設1個放牧準備工1520	H20.12.10	遊休化した水田に繁殖雌牛を放牧することにより、労働時間の削減、自給飼料の増収が図られ、遊休農地の有効利用につながった。	放牧利用は順調に推移し、効果も十分にあがっており、今後も引き続き利用を推進し、飼料自給率向上を図る。		
本巣市	ぎふ農業協同組合	稲わら(肉用牛)	【飼料増産】(耕種作物活用型飼料増産)飼料収集・収穫面積を0.5ha以上増加	0ha	5.3ha	5.4ha	6.8ha	8ha	85%	稲わら収集面積が0haから6.8haに増加した。	稲わら(肉用牛)	【飼料増産】(耕種作物活用型飼料増産)労働時間を2%以上削減	4.17h/ha	2.9h/ha	2.9h/ha	2.9h/ha	3.0h/ha	109%	単位面積当たりの労働時間が削減された	稲わら収穫機(カッティングロールベーター)1台	H20.11.25	作業効率の向上により作業時間が減少した。突然の雨など、天候により計画とおりに作業が進まない事があった。	機械の利用は順調に推移し、効果も十分にあがっており、今後も引き続き利用を推進し、飼料自給率向上を図る。		
中津川市	中津川市	飼料作物(めん羊)	【飼料増産】(飼料増産)労働時間を2%以上削減	42.5時間	42.0時間	49.0時間	33.0時間	34時間	112%	作業時間が削減された	飼料作物(めん羊)	【飼料増産】(飼料増産)単収を3%以上増加	6,000kg	4,000kg	3,990kg	7,010kg	7,000kg	100%	作業の効率化により単収が増加した	細断型ロールペーラー1台	H20.12.25	機械導入により作業時間が全体で9.5時間の短縮になった。カッティングすることによりロールの品質が向上し、食べ残しがなくなった。	機械の利用は順調に推移し、効果も十分にあがっており、今後も引き続き利用を推進し、飼料自給率向上を図る。		

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	特別格加算の取組の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力)	完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				計画時(平成19年)	1年後(平成20年)	2年後(平成21年)	3年後(平成22年)	目標値(平成22年)	達成率			計画時(平成△年)	1年後(平成□年)	2年後(平成◇年)	3年後(平成○年)	目標値(平成○年)	達成率							
				計	1	2	3	目	達			計	1	2	3	目	達							
中津川市	東濃農業協同組合	飼料作物(乳用牛、肉用牛)	【飼料増産】(飼料増産)飼料収穫・収集面積を3%以上増加	10.7 ha	17.6 ha	12.7 ha	14.9 ha	14.0 ha	127%	収穫面積が4.2ha増加した	飼料作物(乳用牛、肉用牛)	【飼料増産】(飼料増産)単収を3%以上増加	5,200 kg	3,500 kg	4,900 kg	6,000 kg	6,000 kg	100%	作業の効率化により単収が増加した	フォレージハーベスター1台	H20.12.26	飼料用稲栽培面積は、増加しており、収穫した飼料用稲は地域の畜産農家に供給している。地域の畜産農家から飼料用稲の生産拡大を要望があるので作付け面積の拡大を図る。また、イノシシ被害で収穫できないほ場もあることから、今後獣害対策を講じる必要がある。	機械の利用は順調に推移し、効果も十分にあげられており、今後も獣害対策を講じ、飼料自給率向上を図る。	
高山市	飛騨農業協同組合	飼料作物(肉用牛)	【飼料増産】(飼料増産)飼料作付面積を3%以上増加	11.4 ha	11.4 ha	23.1 ha	23.1 ha	21.6 ha	115%	稲わら収集面積が増加した。	飼料作物(肉用牛)	【飼料増産】(飼料増産)飼料自給率を2%以上増加	14.9%	12.7%	31.3%	31.3%	23.4%	193%	作業の効率化により収穫がスムーズに行え、自給率が高くなった。	稲わら収集機7台 ラップトップマシン4台 マニユアブレッタ2台	H20.10.30	機械による作業性の向上と省力化により飼料増産を図ることができた。今後も、さらに飼料増産を推進し、飼料自給率向上に努める。	機械の利用は順調に推移し、効果も十分にあげられており、今後も引き続き利用を推進し、飼料増産と飼料自給率向上を図る。	

都道府県平均達成率	111%	総合所見	一部地区を除き、各地区とも概ね成果目標を達成しており、産地競争力の強化に向けた総合的推進が図られた。今後も、各施設の利用率等を確保し、継続して効果が発生されるよう支援していく。
-----------	------	------	--